んでいる。これらの事実は *Vantanea* が本科の中でもっとも原始的な性格を有すること，他の属はこれを出発点として引き出されたものであることを示唆する。本科にはおしべ群の内側に花盤があるのが一般であるが，*Vantanea* ではおしべの筒の内方からこの花盤に trace が入っていることから，花盤がおしべ起源であることが推定される。その他花弁とおしべとの位置関係，心皮の trace 数，胎座の様式などにも触れた。

□牧野富太郎：**復刻版牧野日本植物図鑑**　pp. 1080+29+72+31+12+4, 1977 III, 北隆館，東京，12,000円。昭和15年10月に出た最初の版の復刻版である。本書の内容については今さら述べる必要はない。文章は旧版のままで，今の当用漢字並びに口語文にくらべてひどく古風であるが，それがまた侵し難い威風を以てせまって来るのはまことに不思議である。北隆館もそれを考慮し期待して作ったのであろう。

忠実に旧版を集録しているが，牧野博士自筆の線画3葉（ヒメノボタン，サダソウ，ノヂギク）と，博士米寿の写真，並びに博士の年譜4ページを加えたことは，博士の伝記を知る上に参考となる。なおB5版にやや拡大されている。　　　（前川文夫）

□石川茂雄：**青森県の自然**　A4判172ページ，北方新社，弘前市，昭和52年4月，4,500円。開拓・伐採・開発によって自然は形を変え，緑も少なくなったとはいうものの，本州最北の地青森県にはまだまだ豊かな自然が残されている。長年弘前大学教授の職にあった著者が，植生調査や実験材料採集のため訪れた県下各地で撮影した写真からカラー167，白黒54を選んだ写真集である。八甲田・十和田，県南，下北，津軽半島，西海岸，弘西山地，弘前周辺の7地区に分けて，最も多い林相と群落の景観，次いで植物の大写し，ごく少数の動物が載せてある。これから変化するであろう自然の一記録として重要であるばかりでなく，大いに見る人の目を楽しませてくれる。巻末31ページにわたる解説は，多数の植生図を入れて各地の植物を説明し風景を案内したもので，研究者や学生にとって非常に有益な記事である。　　　（伊藤　洋）

□神田　淳：**写真集日本の野生ラン**　194頁内184頁はプレート。1977 II，誠文堂新光社，東京，20,000円。10年余をかけて心血をそそいで撮りためた写真集である。全体を草原で，湿原で，明るい林で，暗い林で，樹や岩の上の5部に分かち，それぞれについて景観図，花の全形図や細かい区分図と種々にとり分けたものがページを追って出て来て，それぞれに眺めて飽くことを知らない。厳密な野生での撮影であるから，生態や生時の微妙な咲き方の相違を知るにも好都合である。ことにコカゲラン(Pl. 133-136)，アオキラン (Pl. 141-142)，ムヨウラン類 (Pl. 150-157) など，なかなかに珍らしいものをよくうつしてある。またハチジョウシュスランやカゴメランの葉脈の斑の在り方 (Pl. 163-171) などもよくわかる。まことにラン科を学ぶのに打ってつけの本である。2月に出版，4月にも第三版を向えたのはいかによく受け入れられたかを示している。　　　（前川文夫）